



歯科の天敵！それはタバコ！



タバコがからだに悪いということはみなさんご存知ですよ。でも、タバコが歯の病気を悪化させ、しかも治療の成果にまで悪影響をおよぼすってご存知でしたか？！

根気よく歯科医院通ってくださる患者さんにしっかりした治療をしても思うような成果が上がらないなんて…。

タバコの煙が引き起こすお口への健康被害って？

歯周病

喫煙は唾液の分泌を制御するため、唾液による自浄作用が減って口の中が不潔になり、歯周病の原因となる歯垢や歯石が付きやすくなります。

また、タバコに含まれるニコチンは、歯茎の血管を収縮させ、血液の流れを悪くします。酸素や栄養が行き渡らなくなると歯茎の抵抗力は弱くなり歯周病が進行します。

口臭

喫煙者の口腔内は、ニコチンやタールの臭いがします。また、歯周病の悪化と共に口臭は悪臭となります。

歯茎の変色

喫煙により歯にタール（発がん性物質）が付着し、ニコチンの影響で毛細血管が収縮し歯茎は暗紫色になります。粘膜にタールやメラニン色素お呼び、それらを多く沈着させ歯茎や唇の色は黒ずみます。

がん

喫煙者は、口腔や咽喉がんの発生率が非喫煙者の3倍です。

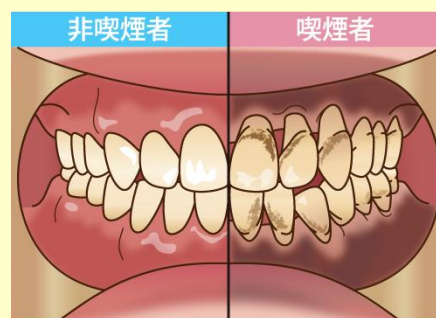


タバコを吸うと歯にヤニが付きます。「いつの間にか歯の裏が茶色く汚れていた」という経験はタバコを吸う方ならみなさんあるのではないのでしょうか？

ヤニは見た目も悪いですが、もっと困るのは歯周病菌などの原因菌を歯に付着しやすくしてしまう点です。

ツルツルの歯面なら、ブラークがついても歯ブラシで容易に掃除できます。

タバコのヤニが何重にも付着してザラザラになった歯面はブラークの中にある細菌にとって格好の足場になってしまうのです。



タバコのヤニも、歯石も、一度こびりついてしまうとご自分ではなかなか落とせません。

定期的に歯科のプロフェッショナルケアを受け、お口の清潔を保ちましょう。